

大磯町まちづくり基本計画
地域別構想ワークショップ報告書

平成16年度
大 磯 町

地域区分図



大磯町まちづくり基本計画地域別構想ワークショップ報告書・目次

1	はじめに	・・・・・・・・・・	1
2	大磯地域	・・・・・・・・・・	2
	はじめに		
	1．地域らしさ		
	2．まちづくりの課題		
	3．まちづくりのテーマ		
	4．まちづくりの取組		
3	小磯地域	・・・・・・・・・・	12
	はじめに		
	1．地域らしさ		
	2．まちづくりの課題		
	3．まちづくりのテーマ		
	4．まちづくりの取組		
4	国府南地域	・・・・・・・・・・	21
	はじめに		
	1．地域らしさ		
	2．まちづくりの課題		
	3．まちづくりのテーマ		
	4．まちづくりの取組		
5	国府北地域	・・・・・・・・・・	31
	はじめに		
	1．地域らしさ		
	2．まちづくりの課題		
	3．まちづくりのテーマ		
	4．まちづくりの取組		

1 はじめに

本町では、大磯らしさを守り育むまちづくりを進めるためのルールとして、大磯町まちづくり条例を平成 14 年 4 月 1 日から施行し、この条例に基づき平成 18 年度を初年度とする大磯町まちづくり基本計画（以下「基本計画」という。）の策定を進めています。

この基本計画は、共有像としての大磯らしさを守り育むまちづくりに関する施策について総合的に推進するために策定するものであり、町の土地利用計画の基本となるとともに、大磯町総合計画を支える都市づくりの基幹的な個別計画となります。

また、計画を策定していく段階から町民参加を積極的に行い、より多くの町民の皆さんの意見等を反映させていきたいと考えています。

本年度は地域別構想策定に向けて作業を進めており、町民参加の一つの手法として大磯町まちづくり基本計画地域別構想ワークショップ（以下「ワークショップ」という。）を開催しました。

このワークショップには、総勢 42 名の方が参加され、「大磯地域」、「小磯地域」、「国府南地域」、「国府北地域」の四つの地域について、6 月から 7 月にかけて 3 回のワークショップを行い、8 月には合同の発表会を開催しました。

この報告書は、各ワークショップで出された提案等をまとめたものであり、策定段階において参考にするとともに、できる限り基本計画に反映させていきたいと考えています。

地域名：大磯地域



はじめに

私たちの地域の参加者は12名(高麗1名、東町1名、大磯10名)で、男性8名、女性4名の構成です。

この報告書は、6月から7月かけて行った3回のワークショップで議論したものを取りまとめたものです。

1. 地域らしさ

自己紹介を兼ねて、参加者が事前に提出したアンケートをもとに地域の大切な場所や改善したい場所について意見を出し合ったところ、大磯地域の文化についての発言が多くありました。その文化とは何かについてさらに話し合いを進めた結果、祭、歴史、自然など多様な文化あげられました。

大磯地域には、鎌倉古道の宿駅・東海道の宿場町としての歴史や近代の別荘地としての歴史があり、まち中には松並木や近代別荘が残っており、自然にも由来や逸話のある場所が多くあります。また、暮らしの中にも伝統行事である祭が多くあります。これらの文化が大磯地域らしさとなっているのではないのでしょうか。

祭	歴史	自然
<ul style="list-style-type: none">・大磯左儀長まつり・高麗山みこし(夜に男坂を登り、朝に女坂を下ってくる)・宿場まつり・伝統行事(春の高来神社植木祭、夏の12町内祭典、左儀長祭の保持)・船にのぼりを立てたい・夏祭りをアピールする方法	<p><コマ寺></p> <ul style="list-style-type: none">・鎌倉街道の温泉と宿・高麗山に22ヶ寺あった。参勤交代時に拝礼・廃仏毀釈でコマ寺から神社に <p><江戸並木></p> <ul style="list-style-type: none">・山王町の旧東海道・松並木(旧道)・旧東海道の松並木景観 <p><近代></p> <ul style="list-style-type: none">・近代別荘・大磯駅前のエリザベス・街全体としての家並のあり方は気になる・駅から一号線の色・形の問題はある <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none">・馬頭観音(池田排水路のあたり)...かつて馬を飼っていた、馬場があった、昔は小学校の運動会をしていた・唐ヶ原(かつて宮家の別荘があった、舟遊びをしていた)	<p><海></p> <ul style="list-style-type: none">・照ヶ崎・遊べる海・観る海の景観・西湘バイパスの問題はある・港を漁業の民俗・文化を伝える場に、防災拠点も <p><山></p> <ul style="list-style-type: none">・さかた山の有効利用(山から見る海、ハイキングの道だった) <p><川></p> <ul style="list-style-type: none">・花水川の由来(桜並木がある川、今、大磯側にはない)・湘南の発祥(高麗山と花水川)・昔の風情をとりもどしたい

2. まちづくりの課題

2.1 大切な場所・改善したい場所

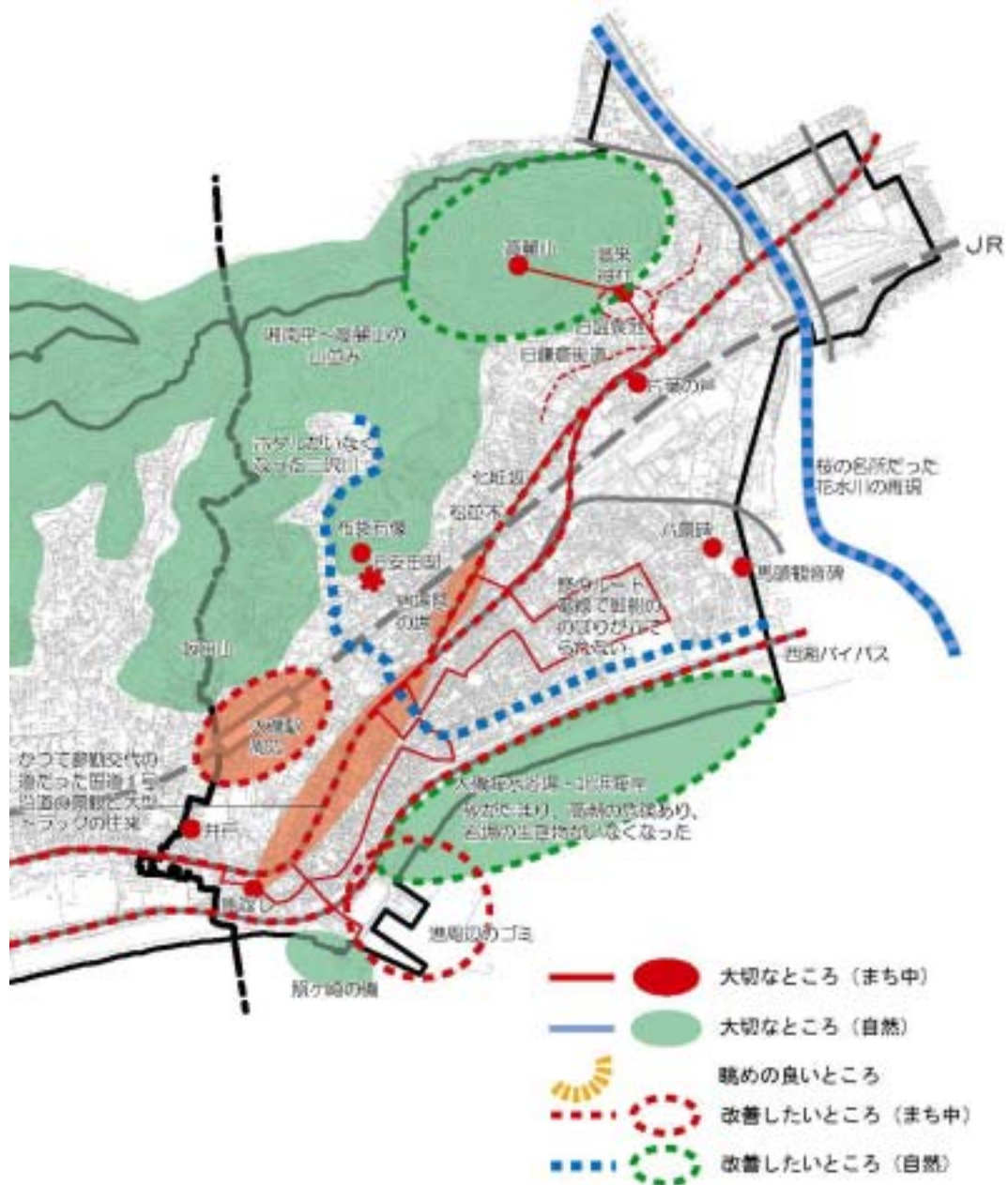
文化と自然を活かすという点から、大磯地域の現在の問題やこれからのまちづくりの課題について意見を出し合いました。文化、自然のほかに開発の必要性についても意見が出されました。

大磯地域の昔からの文化については、大切である一方で陳腐化していることが問題としてあげられました。自然については、照ヶ崎の磯や海水浴場、三沢川などの水辺が大切な場所としてあげられた一方で、生き物の減少やゴミの問題、防災上の危険などが改善したい問題としてあげられました。また、開発については、駅前や道路の整備とともに、住民が集える場所など生活に必要な小さな開発の必要性があげられました。そして開発にあたっては、自然と共存する開発であることが重要だという意見もありました。

表 大切な場所・改善したい場所

文化	自然
<ul style="list-style-type: none">・昔からの文化がある・大磯の陳腐化・御船祭ののぼりが電線で立てられない	<ul style="list-style-type: none">・自然も手を入れないと危なくなる・海岸の砂がたまって高潮など防災上危険・海岸に岩場、カニなくなり遊べなくなった・照ヶ崎を観光に活用できないか？・海水浴場のゴミ拾いを効率的に・三沢川のホタルが減った
開発の必要性 <ul style="list-style-type: none">・自然と共存した開発を・ミニ開発では緑は残らない・駅前の暗さ（来街者の玄関口なのに）・道路の計画的整備と開発・生活にとって大事な小さな開発を<ul style="list-style-type: none">・ふれあい会館の不備・高齢者が集える所を	

図 大磯地域の大切な場所・改善したい場所



大磯駅周辺



大磯海水浴場

2・2 地域の活性化に向けた重点課題

地域の活性化に向けた重点課題を考えるにあたって、今後の大磯地域は住宅のまちなのか観光のまちなのかについて議論しました。その結果、大磯地域のこれからのまちづくりのキーワードは、自然と文化を活かすこと、人が来てまちが豊かになることだと考えました。そのためには、計画を実現していくことが必要であり、取組にあたっては財政的な裏付けや実効性のある計画をたて、小さなことから取り組んで成果を出していくことが重要だということになりました。

表 重点課題

キ ー ワ ー ド	<p>自然と文化を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅のまちか観光のまちか？ ・自然、文化、祭、歴史を生かした観光 ・まちなみの統一（規制と助成） まずは山王町からか？ <p>花のあるまち（ガーデニング）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金をかけずにまちをきれいに <p>いやしのある町</p> <p>人が来るまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高年ウォーキングをターゲットか 	<p>人が来てまちが豊かになること</p>
<p>取組にあたっては...</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで案ができてても実現しなかった。少しでも前進したい ・計画の実効力 ・財政上の裏づけ ・小さなことから手をつけて実現したい ・成果を出したい ・緑の保存と生活動力の調和 ・開発と安全生活 ・少子化・高齢化が急速に進み、町全体が活性化していない。若者が喜んで住める町にするための具体的な方策 		

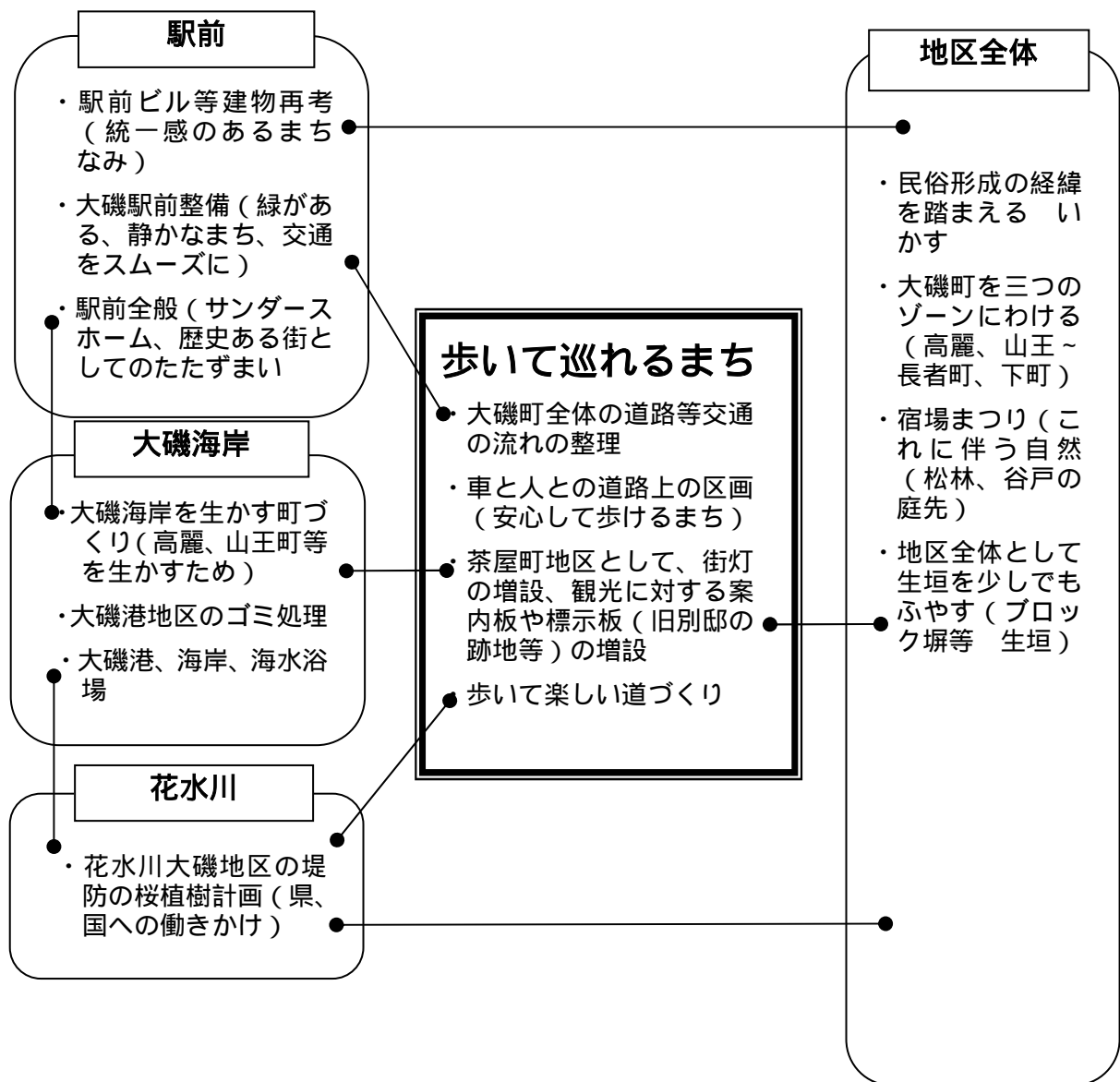
3. まちづくりのテーマ

地域のまちづくりのテーマとしては、よその人も大磯の人も楽しめるまち、歩いて巡れるまちであることが重要であると考えました。

歩いて巡れるまちとしていくためには、駅前や大磯海岸、花水川など拠点となる場所の活用・整備に取組、それらをつなぐ地区全体では、祭の場や庭先の緑の保全・育成、交通安全対策、案内板の設置などにより、住民も観光客も歩いて楽しい道づくりを行っていくことが必要だと考えました。

よその人も大磯の人も楽しめる

- ・大磯らしき観光と住居との共存
- ・観光客だけでなく住民も快適なまち



4 . まちづくりの取組

まちづくりのテーマにそって重点的に行うべき事業・活動・計画などの取組について話し合いました。また、取組にあたって共有すべき理念について考えました。

4・1 計画の理念

「自然と歴史・文化を受け継ぐ住む人にも訪れる人にも魅力的なまち」

大磯地域は、東には花水川が流れ、南には砂浜、港、磯など様々な顔をもつ海を有し、北には高麗山や浅間山などの比較的急峻な丘陵が巡り、その間に市街地が形成されています。その市街地は、鎌倉時代には宿駅として、江戸時代には東海道の宿場町として、明治以降は海水浴場の開設、東海道線の開通により多くの政財界人や文化人が別荘を構え、保養地、別荘地として発展してきました。そして、住民の暮らしの中には、高麗山や海、松並木などの自然やまち並みと密接なつながりをもった祭が引き継がれてきています。

このように、豊かな自然環境と歴史の変遷を経て育まれてきた文化が、大磯地域の多くの魅力資源となっています。これらを継承し活用するとともに、住民による四季の花植えなど、それらを演出する新たな魅力の創出に取り組み、住む人も訪れる人も、快適に楽しく歩いて巡れるような魅力的なまちを目指すため、「自然と歴史・文化を受け継ぐ住む人にも訪れる人にも魅力的なまち」を計画の理念とします。

4・2 重点的な取組

計画のテーマの達成のための重点的な取組は、次のとおりです。

大磯地域では、自然とまち中がともに文化的な背景をもち景観を形成していることから、一体的に取組を行うことが重要と考えました。高麗山と山王町松並木、駅と駅周辺、港・海水浴場の3カ所を、特に重要な場所として考え、また、取組の手順についても議論しました。短期的には、まずは高麗山と山王町松並木から取りかかり成果をだすことが必要であり、国道や港などでは国や県の取組ともあわせて取り組むことも重要です。駅やその周辺では、短期的には花植えやまちづくりの基準づくりなど、できることから取りかかり、改築や整備には長期的に取り組んでいくことが重要だと考えました。このような取組の成果を積み重ねながら、まち中での雰囲気づくりや川の清流化などの取組へ広げていきたいと考えました。

また、取組の実現のためには、推進体制が重要であり、

- ・行政のリードとバックアップ
- ・継続的な住民参加の仕組み、組織
- ・年次別の取組計画

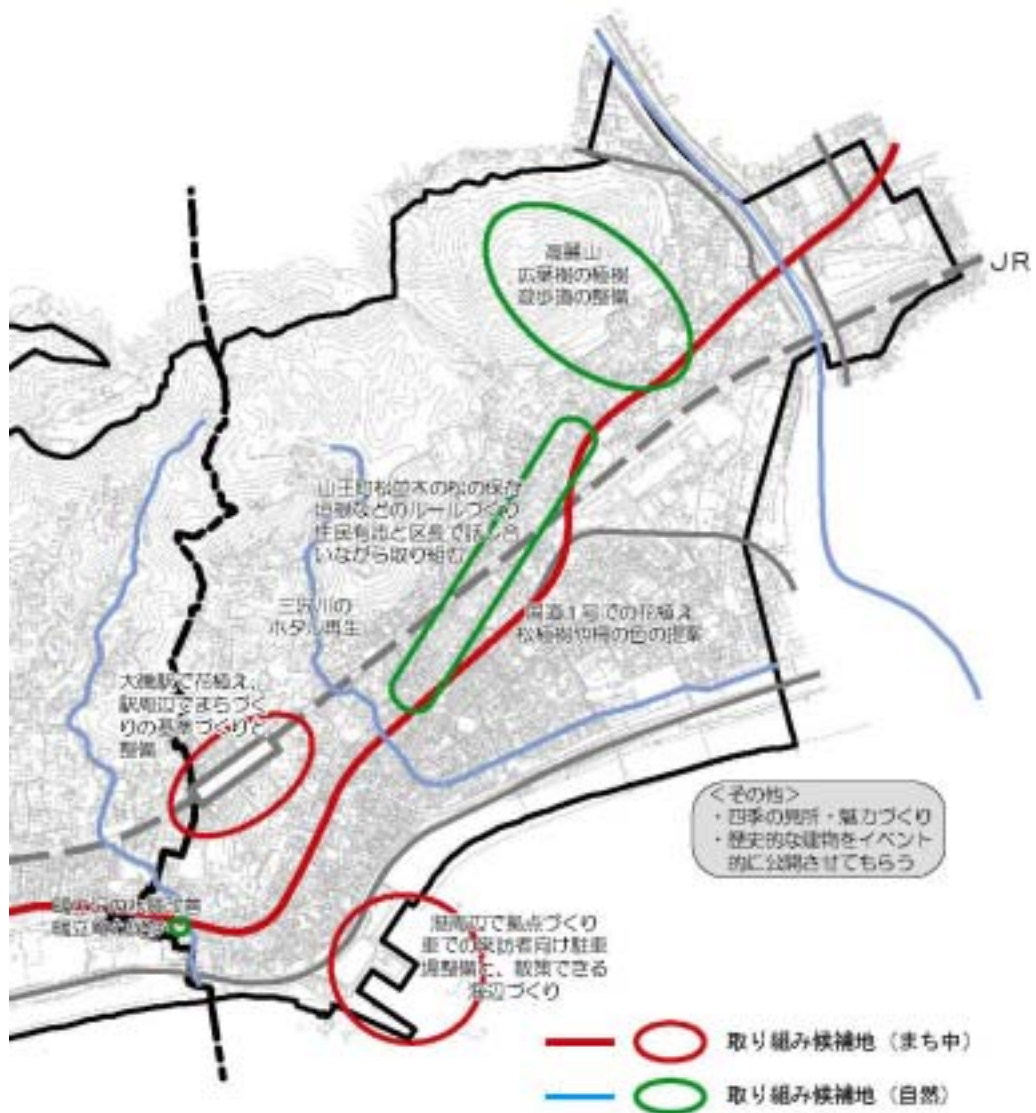
が必要だと考えました。

表 重点的な取組 (は特に重点的な取組)

地区	取組の内容	取組の体制	時期
高麗山と山王町松並木	高麗山に広葉樹を増やす 遊歩道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・町 県へ ・高麗山みこし保存会で手入れしている。これを応援する体制づくり(ボランティア) 	短期
	松の保存 垣根などのルールづくりと助成 取組イメージ写真をつくって 地元にPRする	<ul style="list-style-type: none"> ・まず行政からアプローチ 山王町地区長と有志グループでアイデアのやり取り 	短期

地区	取組の内容	取組の体制	時期
駅・ 駅周辺	構内に住民で四季の花植え まちづくりの基準 ・建物の概観 - 色（茶系？） ・樹木の道路との境界への配置（今の 大磯にはアカメモチが多い、月桂樹 がきれい） ・風致地区に < 駅前周辺の将来像 > ・エリザベスの緑がある ・ドゥゼアンがある ・立ち寄れるカフェや店（コンビニ）がある ・桜やモミジなど季節感のある樹 木がある ・タクシーのたまり場ではない	・協議会をつくって 開発計画は コンペで 地区協定でイメージ に合った改築を	短期
	駅周辺の整備		長期
駅前～ 港・海水浴 場の間	海らしい雰囲気をつくる		
港・海水浴 場	県の計画（湘南なぎさプラン）にあわ せて 港にある県の駐車場をまちづくりに 活用したい ・車で来る人の駐車場をつくる ・朝市（地魚食堂） 観光バスプール 散策できる海辺に...砂浜散策路 ゴミ対策		短～ 長期
河川	三沢川のホタル再生 鳴立沢の浄化（鳴立庵も保存する）		長期
山歩き・史 跡めぐり・ 文化めぐり のルート	春夏秋冬の魅力づくり・見所づくり 歴史的な建物をイベント的に公開 させてもらおう（古河邸、池田邸）	・有志の取組を PR することが必 要 ・地元の協力も必要 ・観光案内ボランティア（情報の 統一必要）	
国道1号	歩道整備にあわせて 国に対して松植えやフェンスの色 の提案 住民で花植え		短期

図 重点的な取組



地域名：小磯地域



はじめに

私たちの地域の参加者は8名（大磯1名、東小磯4名、西小磯3名）で、男性5名、女性3名の構成です。

この報告書は、6月から7月かけて行った3回のワークショップで議論したものを取りまとめたものです。

1. 地域らしさ

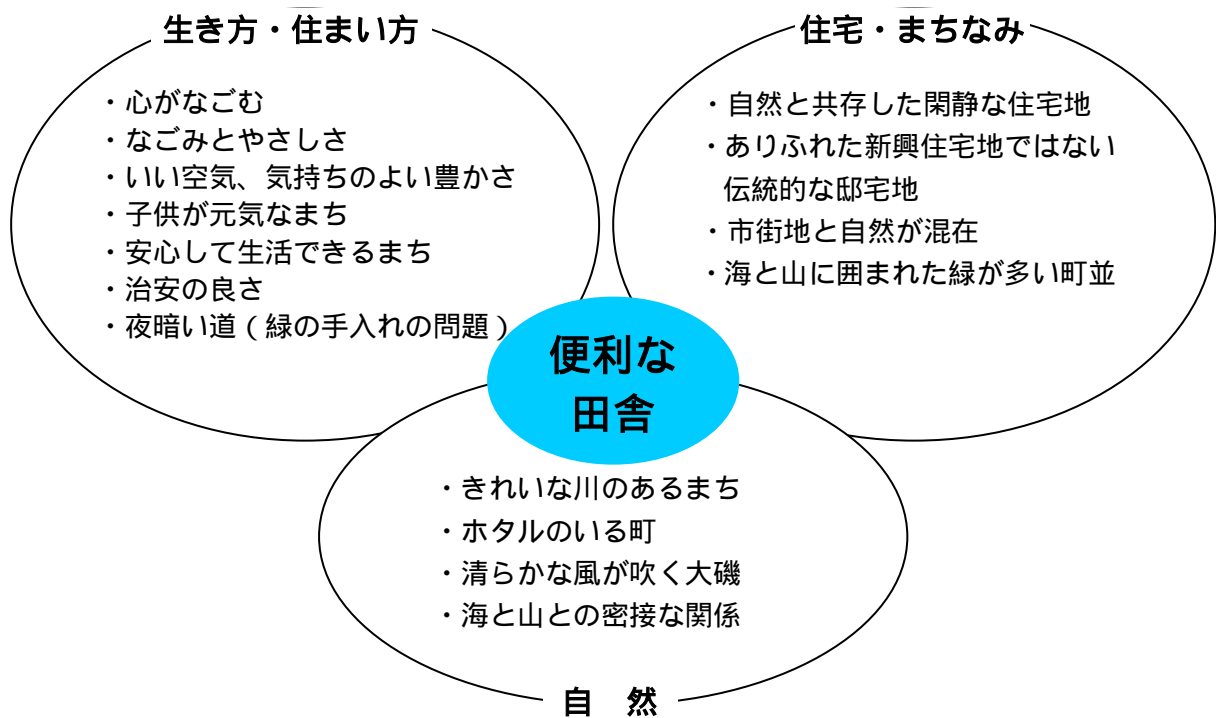
小磯らしさについて話し合ったところ、その内容は「 生き方・住まい方」、「住宅・まちなみ」、「自然」の3つの要素に分けられました。

まず、生き方・住まい方の面では、「心がなごみ安心して住める」ということが特徴であると考えました。

このような住まい方ができる背景には、住宅・まちなみが、「自然と共生した閑静な住宅地」であることや、「伝統的な邸宅地」としての趣を持っていることも大きく影響していると考えられます。

さらに、自然の面では、血洗川などのきれいな川があり、山と海に挟まれ、清らかな風の感じられるなどの自然を十分に感じられることが特徴です。

そして、このような特徴を考え合わせると、小磯地域らしさを一言で言えば『便利な田舎』ではないかと考えました。



2. まちづくりの課題

2.1 大切な場所・改善したい場所

自己紹介を兼ねて、参加者が事前に提出したアンケートをもとに地域の大切な場所や改善したい場所を発表しました。

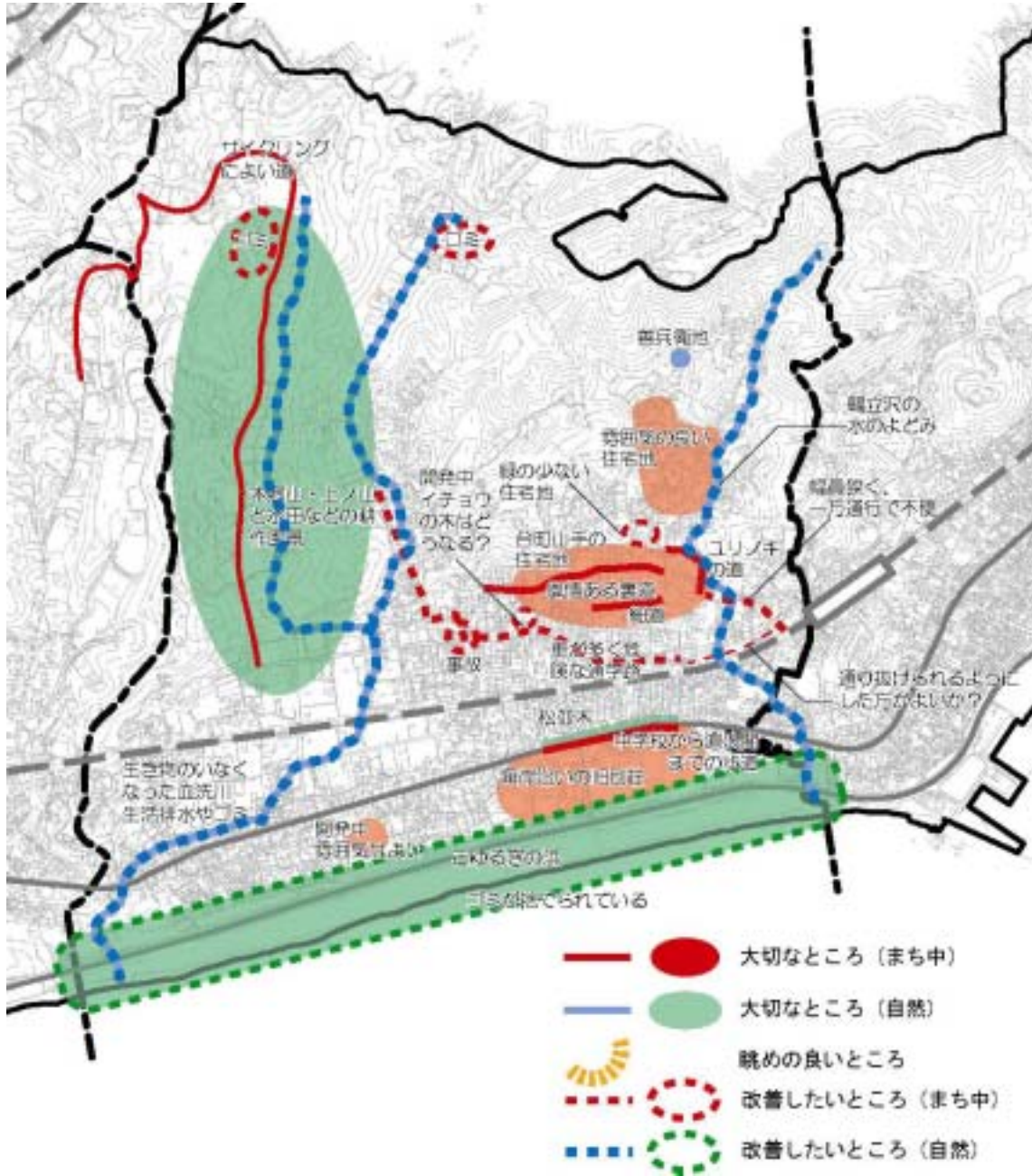
大切な場所は、自然や住みよさがあがりました。改善したい場所は、ゴミ、生きものや若い人の転入があがりました。

表 大切な場所・改善したい場所とその重要度

	大切な場所		改善したい場所		アイデア	
自然	<一般> ・身近に自然がある ・こゆるぎの浜 ・本郷山 ・サイクリングが気持ちよい道、山、谷 ・空気の素晴らしさ <生きもの> ・鳥の鳴き声 ・アオバト ・昔は血洗川にエビ、フナ、ドジョウの生き物がいっぱい ・昔は善兵衛池周辺にホタルがいた	←	ゴミ ・ゴミの不法投棄 ・荒れた休耕地に生活ゴミが捨てられている ・汚れているとゴミを捨てられてしまう ・川に生活排水 ・沢がつまって水が枯れている	12ポイント 重要度	・浜のゴミをボランティアでまめに ・参加した人にメリットを 楽しみながら管理を	5ポイント 重要度
		→	生きもの ・血洗川にザリガニすらない ・コンクリートで固めるのはどこの町でもみられる ・血洗川の自然を生かさないか？ ・自然の回復できないか？ ・整備の仕方の工夫で大磯らしくできないか？	6ポイント 重要度	・血洗川に子どもがおりて遊べるように ・小磯の谷戸・運動公園の池をウォーキングルートとして紹介 自然を楽しめる工夫を ・運動公園の植栽はさざんか・つつじではなく山にある植物を	6ポイント 重要度
住みよさ	<自然だけでなく歴史がある> ・著名人が住んだ ・住民の永住意識が高い ・良さが守られている <便利さと自然の共存> ・冬も暮らせる ・東京に近く周辺市町に利便施設がある	←	若い人の転入 <コミュニケーション> ・引越してきて地元の人と仲良くなれる場を ・地域の人とのコミュニケーションの場、機会を <安心> ・安心して生活の基盤が築けるまちに <安全> ・子ども達の通学路が危ない(ポール、白線、交通標識など)	1ポイント 重要度	・緑の多い住宅地を守る基準を ・大きな木を残せる仕組みを	6ポイント 重要度
		→		2ポイント 重要度		3ポイント 重要度

注 重要度がポイント...重要だと思う課題についての投票結果の獲票数。

図 小磯地域の大切な場所・改善したい場所



血洗川



台町山手の住宅地

2・2 地域の活性化に向けた重点課題

改善したい場所の中で、特に重点的に対応すべきものについて検討したところ、大きく次の3点があがりました。

1) 自然を活かし楽しみながら管理する仕組み

自然は小磯地域の中でも最も大事なものの1つですが、特に谷戸の地域でのゴミの不法投棄や川の水質、耕作放棄地が発生していることなど、自然環境があらされていることが大きな問題です。これらはすぐには解決しませんが、住民自らが楽しみながら管理をしていくことが重要です。

また、特に川については、子どもがふれあって遊べるような環境整備をすることや、丘陵地も含めてウォーキングルートとして活用することが大事です。

2) 緑豊かな良好な住宅地をつくる

小磯地域は台町山手地区に代表されるように、特に良好な住宅・邸宅地があります。近年では、小規模な開発により緑が少なくなっていく傾向にありますが、これらの緑と住宅地の景観を守るためルールづくりが必要です。

3) 安心して暮らせるための環境整備

景観の良い、味わいのある道がある一方で、子ども達やお年寄りにとっては危険な道も見られます。特に通学路となっている路線では、歩行者空間の確保や、交差点を安全にしていけることが必要です。

3. まちづくりのテーマ

地域のまちづくりのテーマについて話し合い、「自然を大事にする」、「便利で安全なまち」、「風情のあるきれいなまち」、「自分で守るまち」がキーワードとしてありました。

テーマ1：自然大事にする

- ・自然 = 不便ではなく便利を兼ねそなえる
- ・今ある自然を大事にする。より発展したものにつながる（下水道整備、公園広場）
- ・自然と生きる、自然の中で生かされる、自然にいやされる、まちに生きる

テーマ2：便利で安全なまち

- ・住み続けられる便利さも大事
- ・安心して安全に生活できる町（交通、道路、信号など）
- ・交通・通学の安全（白岩神社～ガード下、横断歩道の旗）

テーマ3：風情のあるきれいなまち

- ・せせらぎのある細道
- ・家のまわりの緑、生垣
- ・善兵衛池あたりを小ざれいに保つこと。ポストや一ヶ所に住民が話し合える長イスなどを置く。

テーマ4：自分で守るまち

- ・身近なところを小ざれいに
- ・自分の町は自分で守る。
- ・自然は自分たちの手で共に生きる
- ・守る取組
- ・手間をかける。時間をかける。そのことも楽しめるように

4 .まちづくりの取組

まちづくりのテーマにそって重点的に行うべき事業・活動・計画になどの取組について話し合いました。また、取組にあたって共有すべき理念について考えました。

4・1 計画の理念

「海、山の自然と共生し、風情ある住みやすいまち」

小磯地域は、南にはこゆるぎの浜、後方には代官山や本郷山などの小高い丘陵が巡り、その間には谷戸、田園、松並木、緑豊かな住宅地などがあり、多様な風景をもつ地域であるといえます。

この地域には、鎌倉古道や旧東海道が通り、大磯中学校前の松並木にその名残をとどめています。また、明治以降は多くの政財界人や文化人が別荘を構え、古河電工大磯荘などとして現在にその姿を伝えています。

このように、豊かな自然や歴史、文化を有する地域ですが、丘陵の荒廃、農業の衰退、河川の水質悪化、松林の減少、住宅敷地の細分化など様々な問題が生じており、これらに課題にみんなで協働して対応し、この豊かな環境を次の世代へとつなげていくため、「海、山の自然と共生し、風情ある住みやすいまち」を計画の理念とします。

4・2 重点的な取組

計画のテーマの達成のための重点的な取組は、次のとおりです。

まず、自然の部分では、まず身近に子ども達もふれあえる自然としての河川が重要との認識から、血洗川の整備が重点課題としてあがりました。また、昔は使っていた山道なども歩きながら発見し、ハイキングルートとして整備すると、自然が大人も楽しめるものとして活かされると考えました。

また、まち中では、まずJR北側（山側）の狭あい道路が安全上問題が大きいことから、この路線の整備を図ることが重要です。さらに、公園は数多くありますが、大人から子どもまでより幅広く活用できるよう、芝生化や木陰をつくるなどの改善が必要です。また、住宅地については松濤台などの建築協定を参考に、他の地区においても現状の景観を守れるようルールづくりを進めていくべきと考えました。

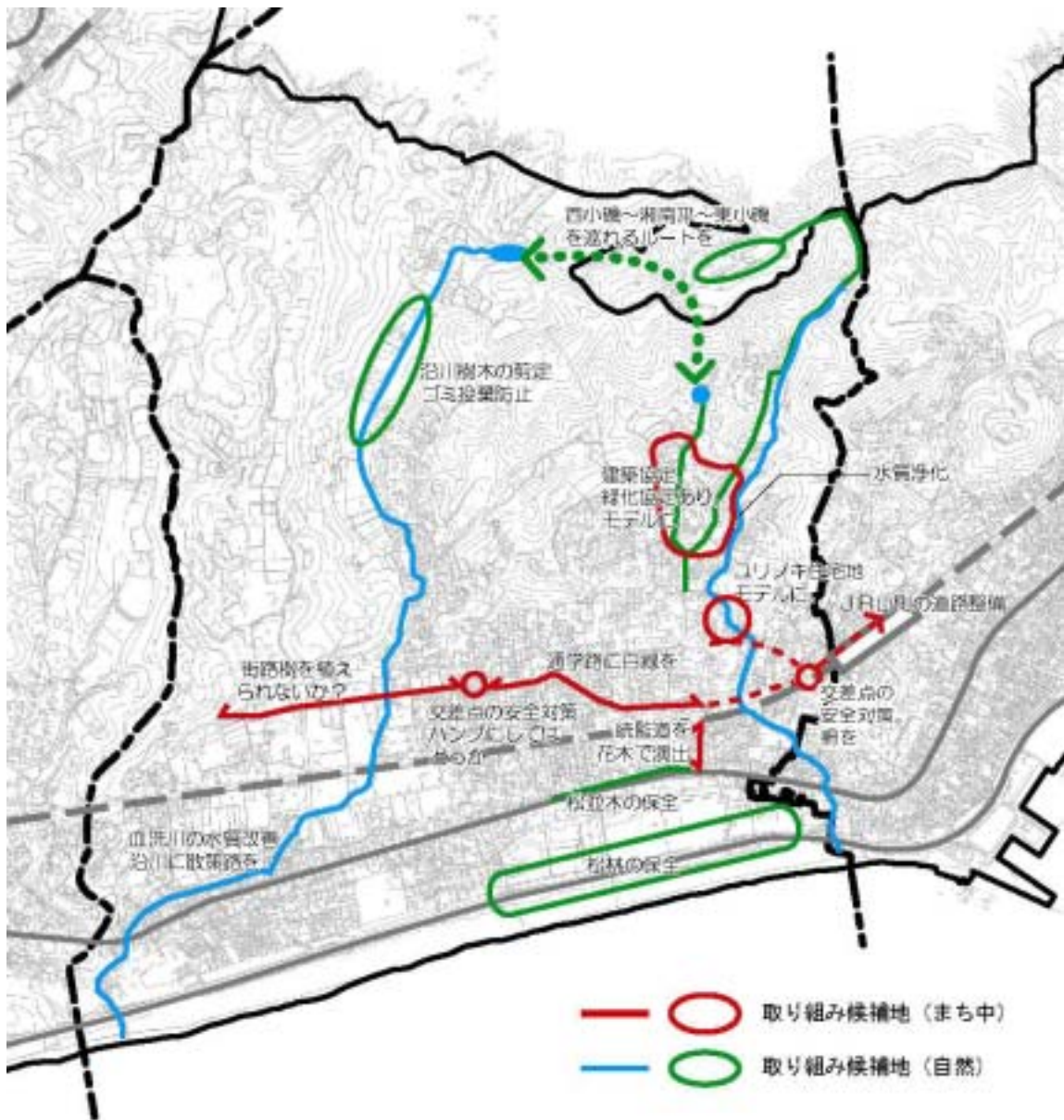
また、これらを進めるにあたっては、まず住民が歩きながら行政と一緒に考え、子ども達も巻き込みながら、まちづくりの担い手を増やしつつ行うべきであると考えます。

表 重点的な取組

		何を・どこで	誰が (住民、行政、その他)
自然	河川	<p>鳴立沢、血洗川の整備・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質の浄化 ・血洗川の沿川に散策路の設置 ・メダカの放流 	<p>まずは住民で歩いて確認する その後、行政も一緒に整備方法を考える 考え方として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつてあったものだけでなく新たに作る場所も ・子どもたちに体験させて担い手を創りだす
	谷戸・農地	<p>休耕田の活用 農業後継者の問題</p>	
	ハイキングコース	<p>東小磯～湘南平～西小磯・谷戸のハイキングコース整備 湘南平の登り口の整備 山林の手入れ</p>	
まち中	道路	<p>JR 山側の道路・通学路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路での白線整備 ・危険な交差点にハンプの設置 ・狭い道路の電線地中化 ・小学校のガード裏の細道の安全柵設置 <p>駅北側のアクセス道路整備 国道1号鳴立沢の交差点の改良（お年寄りが渡りきれない） 街路樹の設置</p>	行政
	公園	<p>大人と子どもが使える公園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園の芝生化 ・公園に木陰を設ける ・子どもを見守るため大人も休める公園 	住民、行政
	住宅地	<p>住宅地の環境を協定で守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の形態や色彩などのルールづくり ・緑のある住宅地環境の維持形成 ・松濤台・ゆりの木の住宅地をモデルに 	住民、行政、事業者
	並木	<p>松林・松並木の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道1号の松並木 ・こゆるぎの浜の松林 ・松枯れ対策などで保存を <p>統監道を花木で演出（昔は道の庭に桜を植えていた）</p>	住民、行政

網掛けは特に重点的な取組

図 重点的な取組



地域名：国府南地域



はじめ

に

私たちの地域の参加者は 12 名（国府本郷 6 名、国府新宿 2 名、月京 2 名、石神台 2 名）で、男性 10 名、女性 2 名の構成です。

この報告書は、6 月から 7 月かけて行った 3 回のワークショップで議論したものを取りまとめたものです。

1 .地域らしさ

国府南らしさについて、参加者各自でキーワードをあげていったところ、次のようなものがあがりました。

- ・ 国府の千年の歴史は住民の心にある。重要なのはなぜ千年前に国府の場所として選ばれたかである。
- ・ 鎌倉でもなく、田園調布でもなく
- ・ のんびりして、自然と遊べて、安全なところ（これは転入者にとっての魅力にもなっている）
- ・ おいしくて安全な果物が食べられる
- ・ 海岸の松並木や国府祭こうのまち

国府南地域は、国府の千年の歴史がありますが、歴史的なまち並みが特徴となっているまちということではなく、国府祭などの伝統文化として受け継がれてきたまちです。また、ただ緑が多いというまちでもなく、身近に遊べる自然があったり、おいしい産物があったり、生活の中に自然の豊かさが感じられるまちです。すなわち、日常生活のそこかしこに自然の豊かさが感じられること、またその豊かさの中で培われてきた伝統文化や住民の穏やかな気質が国府南らしさではないかと考えました。

2. まちづくりの課題

2.1 大切な場所・改善したい場所

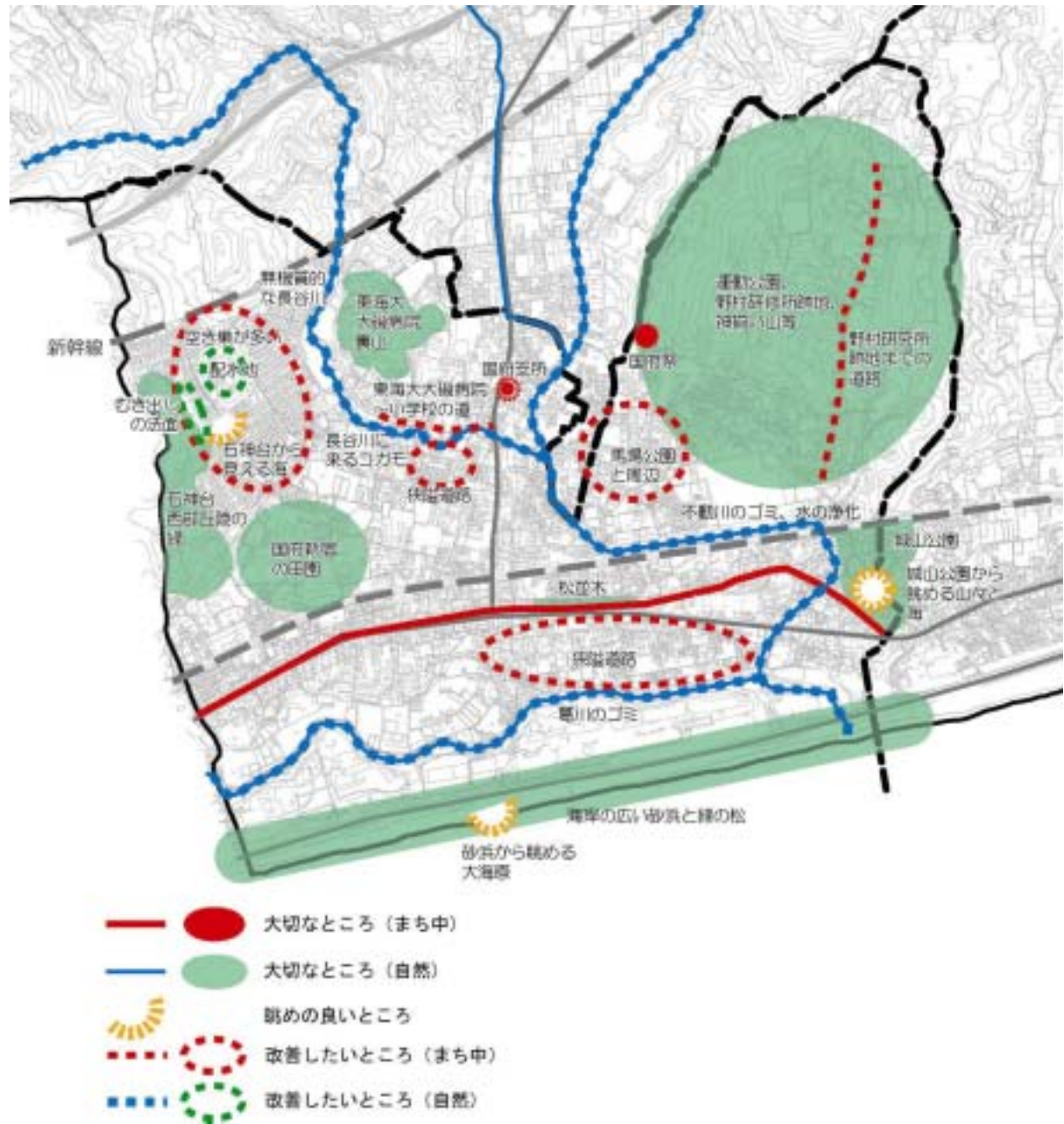
事前アンケートをもとに、参加者が自己紹介時に発表した、地域の大切な場所や改善したい場所として、下表のようなものがありました。

大切な場所としては、里山・緑・海・川の身近な自然の場所があがりました。改善したい場所としては、汚れている川、県道の街並みや救急車が入れない狭い道路があがりました。話し合いの中では、大切な里山や海や川などの自然やまち中の緑と、改善したい川の問題は、すべて水に関係しており、地域のエコロジーとしてとらえる大切さが指摘されました。また、緑や川の手入れをしている人からは、管理の大変さとともに管理をやらない人から文句を言われる苦勞など、維持管理問題の指摘もありました。

表 大切な場所・改善したい場所

大切な場所		改善したい場所	
里山・緑	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山がある、野鳥が飛び交う ・ 緑が見える景色 ・ 中丸松並木 ・ 山々の美しさ ・ 自分の住んでいる場所の緑 ・ 緑(ほっとする) 	川	<管理の問題> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道の整備（水質改善） ・ 不動川の整備・ゴミ ・ 不法投棄の回収方法 ・ 美化をやらない人が文句を言う ・ 川にゴミを捨てさせない工夫 ・ 川に鳥、魚が帰ってくるように ・ 泳げる川、遊べる土手
海・川	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川にコガモ ・ 山など高いところから眺める海の景色 ・ 昔は川で泳いでトマトも冷やして食べた 	道・街道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国府支所から国道までの街並み改善 ・ 狭あい道路（中丸地区など） <ul style="list-style-type: none"> …自転車・歩行者のためのゾーンを …救急車が入れる道路に

図 国府南地域の大切な場所・改善したい場所



東海大大磯病院前の道



野村研究所跡地近くの谷戸

2・2 地域の活性化に向けた重点課題

地域の重点課題については、国府南らしさとして自然などの魅力とともにそれによって培われてきた気質もあげられたことから、自然と気質に区分し、それぞれの現況、将来、それを達成していくための課題を整理しました。課題としては、豊かな自然をどう守り活用していくか、住民が穏やかなだけでなく元気なまちにしていくためにはどうしたらよいかについて話し合いました。

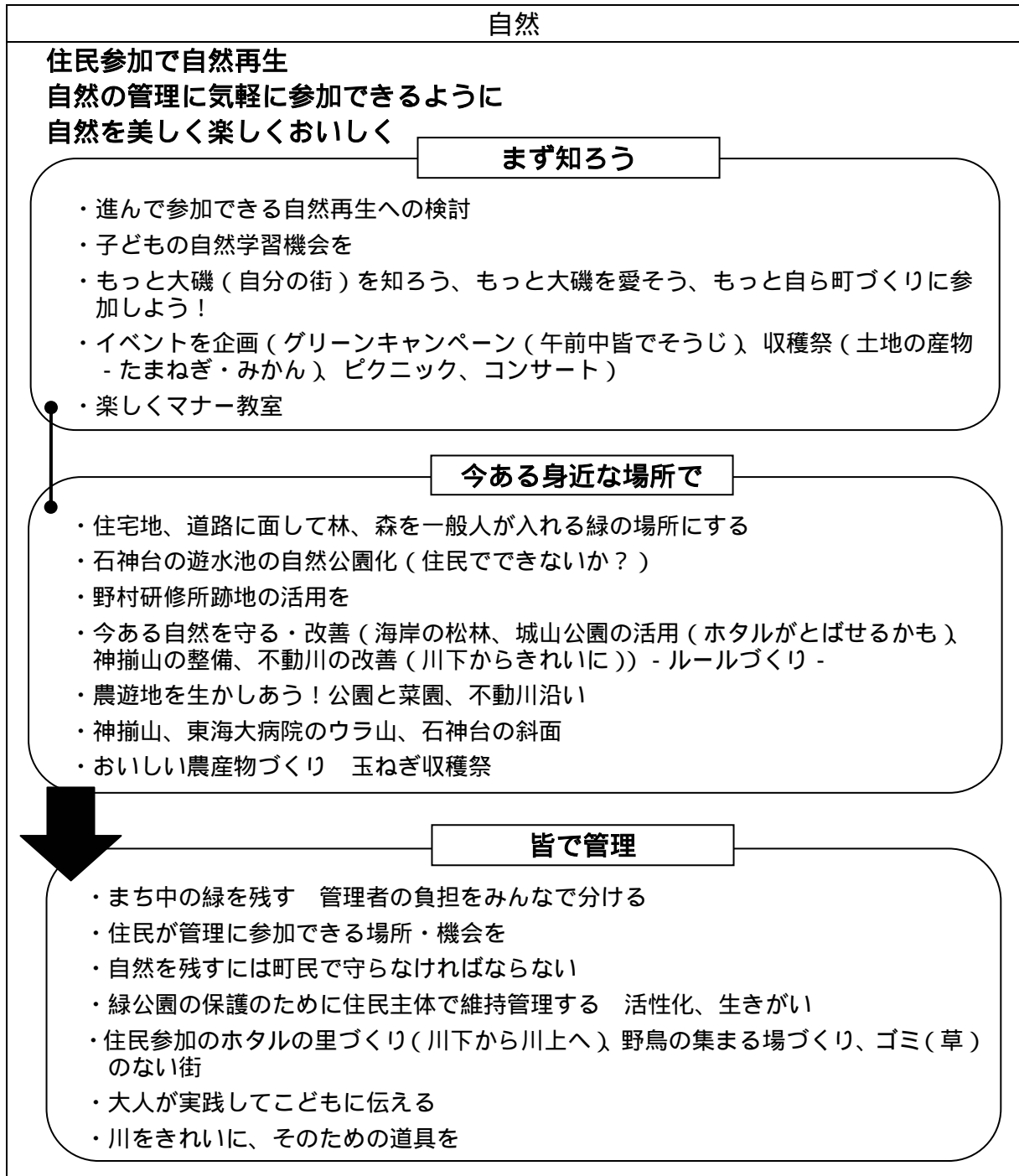
その結果、地域の素材を生かして楽しさを生み出す工夫をし、所有者だけでなく多くの住民も参画して地域を管理し、運営していくことが大切ではないかと考えました。また、地域の活性化のためにも、まず住民自身が楽しめる元気なまちにしていくことで、将来は外からも人が楽しみにやってくるようにしていくことが大事だと考えました。

表 重点課題

キーワード	自然		気質
	川	山、田、空地	おだやかで静か 元気がない
今は	<ul style="list-style-type: none"> 住んでいる以上、生活廃水は入る 雨水も流れ込む放水路 自然を変えてきたのは住民自身 自然を守る意識がない 	<ul style="list-style-type: none"> 遊べる場所が多い ホテルもいる 公園は危なくて(犯罪)遊ばせられない 	<ul style="list-style-type: none"> 原資がない 開発から取り残されている 農地・緑は残っている 公園で遊ぶ子どもはまだいる
これからは	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが遊べる多自然型の川に どうやって仲間づくりをするか？ どう使っていくか？ もっと多くの人を楽しみに来られるように 	<ul style="list-style-type: none"> もっといろんな人が行きたくなる安全な場所に 	<ul style="list-style-type: none"> 住民自身が元気なまちに 若い人にも魅力ある街に
課題	どう守っていくか？ どう活用していくか？ <ul style="list-style-type: none"> ルールで守る？ 所有者の負担大 参加して自分でやらないと守れない 国、県、町のお金を使うか？ ボランティアで行うか？ 		まず住民が自然の中で安全に楽しむこと！
	将来的に...外の人でも楽しめるように！ <ul style="list-style-type: none"> 自然観光(安心して一日楽しめる、ゆっくり楽しめるように) 地場産物を活かす 		
アイデア	<ul style="list-style-type: none"> 下水道は時間がかかるので合併浄化槽の普及を 釣りをする時にゴミも拾う 		<ul style="list-style-type: none"> 区画整理をして貸農園をまちなかに

3. まちづくりのテーマ

地域を自然とまち中に分けて、地域のまちづくりのテーマについて話し合いました。身近に豊かな自然がある一方で、里山には人の手が入らず荒れていること、川は汚く水に親しめる状態ではないこと、美観に問題があることなどが分かり、住民参加での自然再生が必要だと考えました。特に自然については、手順についても議論がおよび、まずは地域を知ることから始め、身近な場所からとりかかり、住民皆が参加する機会をつくり、実践していくことが大事だという結論に至りました。



まち中

- ・安全にくらすために ネットワーク作り
- ・子育てしやすく
- ・子どもを育てる学童保育を（つくる予定）
- ・町的美観・グリーン化（町のイメージカラーに）...川に清掃車を設ける（小型クレーン車を改造） サビついたガードレールをダークグリーンにする

4 . まちづくりの取組

まちづくりのテーマにそって重点的に行うべき事業・活動・計画などの取組について話し合いました。また、取組にあたって共有すべき理念について考えました。

4・1 計画の理念

「自然に学び自然を伝える」

国府南地域は、南は海に面し、後方には丘陵が巡り、不動川や葛川など比較的大きな河川が流れ、また国道や県道などの幹線道路が走り、豊かな自然と利便性をあわせもつ地域であるといえます。

この地域は、平安時代末期に相模の国府が置かれ、月京や祇園など京都風の地名が残っており、また国府本郷や国府新宿に国府の名をとどめています。また、毎年5月5日には千余年の歴史をもつという国府祭こうのまちが神揃山を中心に執り行われています。これらの歴史や伝統が継承され、培われてきたのはこの恵まれた風土、豊かな自然環境があったからだと考えます。同時に、その自然環境は、地域の人々が生活の中で手入れし利用してきたことで維持されてきたものです。

このため、生活文化の土台である身近にある森や川や海の自然をもっと知り、守り、育み、次の世代へとつなげていくため、「自然に学び自然を伝える」を計画の理念とします。

4・2 重点的な取組

計画のテーマの達成のための重点的な取組は、次のとおりです。

自然の取組としては、「自然に学び自然を伝える」モデル的な場所として、野村研修所跡地の整備・活用です。取組は、住民主導で、森林連やPTA・こども会など地域の関連団体と協力しながら進めていくことが重要です。将来的には、神揃山と三之宮道、不動川などでの取組も進め、国府南地域の文化・歴史・自然の散策コースをつくりたいと考えました。

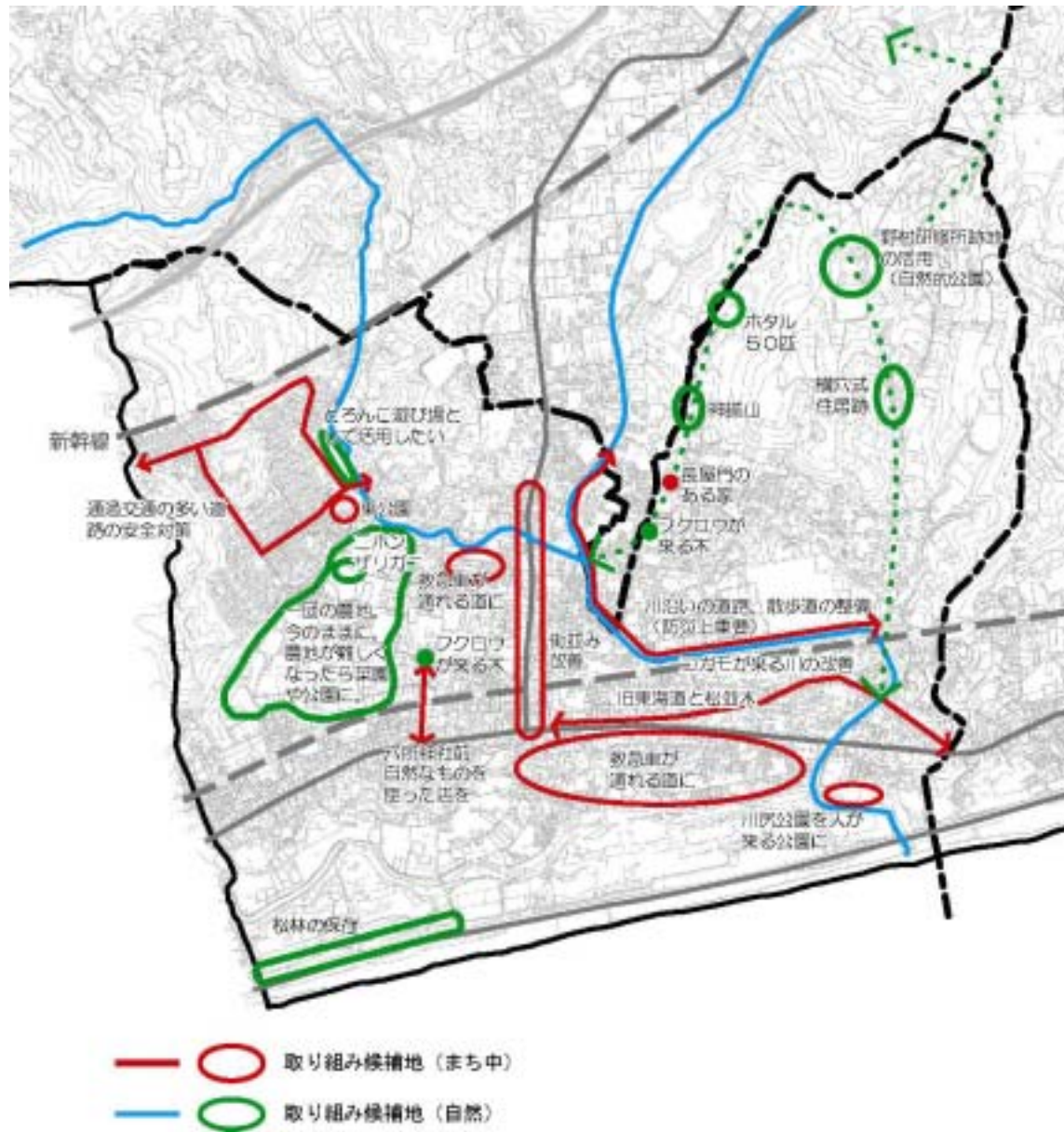
表 重点的な取組 (は特に重点的な取組)

地区	取組の内容	取組の体制	
自然	野村研修所跡地	<ul style="list-style-type: none"> まずは自然に学び自然を伝えるモデル的な場所として、教育の場、イベントの場とする。 ・建物をこわし、古い森林を守り(生かし)自然化した公園 <活動・整備アイデア> ・楽しんでつくって、持って帰れるものを ・落ち葉かき 腐葉土をつくる ガーデニングに ・炭づくり。炭は利用価値がいろいろある(川の浄化、脱臭に、風呂に入れて) ・昆虫の生息地づくり ・地元の牛乳をつかったアイスクリームづくり ・間伐 散策路は間伐材のチップで <交通対策> ・野村跡地までの交通アクセス、クルマの通行の問題対策(道路拡幅?、運動公園駐車場の活用?) 	住民主導で ・活用検討の場を住民とのワークショップを ・行政も住民に情報の提供を(これからどうなるのか?) ・リタイアした人の活動参加のきっかけづくりが重要 ・参加者の特典も必要 - 活躍できる気概・生きがいの基本だが... ・森林連と連携 ・PTAや子供会も
	神揃山	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の整備(町立公園化?) ・三之宮道の散策路づくり ・所有者・住民で下刈り、手入れなど ・利用者ルールの周知(採らない、捨てない) ・相続の問題はある 	
	不動川	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の調査 ・川清掃車をつくる(グリーンカー) ・ガードレールをダークグリーンにぬる ・川尻地域の整備 ・多自然川と菜園(平塚学園廻り) 	
	樹木	<ul style="list-style-type: none"> ・夏フクロウが来る馬場公園横の木、六所神社周辺の木を保存する仕組みを 	
	石神台遊水池	泥んこの遊び場づくり	

まち中の取組としては、不動川沿いでは散策・防災の意味も兼ねた道路整備、自動車の交通が多い東海大病院前での歩道整備など、安全のための道路整備が必要です。また、国府南地域のメインストリートとなる道路の沿道では、公共施設の色をテーマカラー（例えばグリーンなど）を決めて統一することや、住民で共通テーマを持った庭づくりをするなど、まち並みづくりに取組むことも重要です。

地区	取組の内容	取組の体制	
まち中	不動川沿い (馬場地区)	狭あい未舗装な不動川沿いでの道路整備(防災道路としても重要...ポンプ車で川から取水放水) ・地権者の問題がある	行政主導で ・実現までの経過の逐次報告を
	東海大病院前	歩道の整備	
	県道沿道 国道1号沿道 町道幹線21号線沿道	まち並みづくり ・まち中の公共施設の色の統一 ・住民の庭づくりに共通テーマを ・新築する人への色の提案と助成・優遇	
	新宿北地区 中丸地区	・住宅街の道路に救急車が通れるように	
	六所神社のウラの公園 川尻広場	・人が来る公園に整備を	
	住宅地	・若い人が住める地域にする(まちづくりの原資のためには若い人に来てもらう必要がある)	
	国府新宿の調整区域農地	・今は農家が頑張っているの、後継者問題が出てきたら... ・土とふれあえる場に ・農遊地を森林・町民の菜園化する(公園の特性)	
	推進方法	・国府南地区の歴史と自然を知る会の設置と行動(遊び方も教える) ・各緑地を自然公園化するためにアイデアを求め、コンペで町が公募したらよい	

図 重点的な取組



地域名：国府北地域



はじめ

に

私たちの地域の参加者は 10 名（生沢 2 名、寺坂 2 名、虫窪 2 名、黒岩 2 名、西久保 2 名）で、男性 5 名、女性 5 名の構成です。

この報告書は、6 月から 7 月かけて行った 3 回のワークショップで議論したものを取りまとめたものです。

1 .地域らしさ

国府北地域は、全体的な特徴としては、大磯町の中でも最も自然が豊かでのどかであることが挙げられます。また、5 つの個性ある地区の集まった地域であることももう 1 つの特徴と言えるでしょう。

1) 自然の豊かさやのどかさ

国府北地域は、鷹取山、谷戸川、不動川に代表される自然豊かな地域です。特に谷戸川は「大磯の奥入瀬」あるいは「箱根」とも言える野性的な自然の残る地です。また、鷹取山は見晴らしも良く貴重な野鳥も飛来することから、バードウォッチング、ハイキングを楽しむ人が多く訪れます。

2) 特性の異なる 5 地区の集まり

国府北地域は、大きく県道沿道の平坦な生沢・寺坂地区と、丘陵の上に位置する、虫窪、黒岩、西久保地区（通称、山 3 地区）とで特徴が異なります。

全ての地区が農業を主とする地区ですが、生沢・寺坂では稲作農家も多く、谷戸の田園風景が広がっています。県道は交通量が多いことから、沿道には直売所も多く立地します。また、寺坂は名の通りお寺の多い地区ですが、その外にも隠れた歴史的資源が非常に多い地区です。

山 3 地区は、みかんなどの果樹や酪農を主とする農業地域で、見晴らしが非常に良いのどかな地域です。秋にはみかん狩りに来る人も多く、全体に来訪者の多い地域ですが、近年では後継者の不足や耕作放棄地の増加も問題になっています。

2. まちづくりの課題

2.1 大切な場所・改善したい場所

参加者が事前に提出したアンケートをもとに地域の大切な場所や改善したい場所を発表しました。

地域の魅力は自然の豊かさ、泣ヶ原の風景や谷戸川などの山や川、問題点は山が手入れされていなくて荒れていること、ゴミの不法投棄、交通の不便さ、人口の減少などがあがりました。

表 大切な場所・改善したい場所と今後必要な取組

	大切な場所・魅力	改善したい場所・問題点	今後必要なこと
山	自然が豊か ハイキング、ゴルフ、バードウォッチングに人が来る 泣ヶ原の風景 山の風景	<p><山が荒れている> 里山として使われなくなり荒れている 手入れされていない山からは富士山が見えない 本当の自然と、手を入れる自然の違い</p> <p><山の負担が大きい> 農地と山の負担が重い 売りたいくても売れない 農家を続けられない家が多い</p> <p><ゴミ問題> いたる所にゴミの投棄 野草も採られて減少</p>	山の活性化 土地利用をあわせて考えて活性化を 風景のよさを福祉とあわせて活性化を
川	谷戸川 大磯の奥入瀬	<p><ゴミ問題> 谷戸川のゴミ 野鳥の会の人と一緒にゴミ拾いしているが...</p>	徹底的にゴミをなくす
交通		交通アクセスが不便	二宮駅とのアクセス確保、通勤者の生活ルート 小田厚 県道の災害時のライフラインとしての整備
人口		<p><人口の減少> 調整区域で家が建たない 子育て世代が来ないし、出ていってしまう でも、家が建てば売れて子育て世代が来ている</p>	若い人が住みやすいまちづくり 結婚しても残れる生活環境づくり お年寄りも暮らせるSE-ル タツづくり(コンビニ、ご用聞き)

2・2 地域の活性化に向けた重点課題

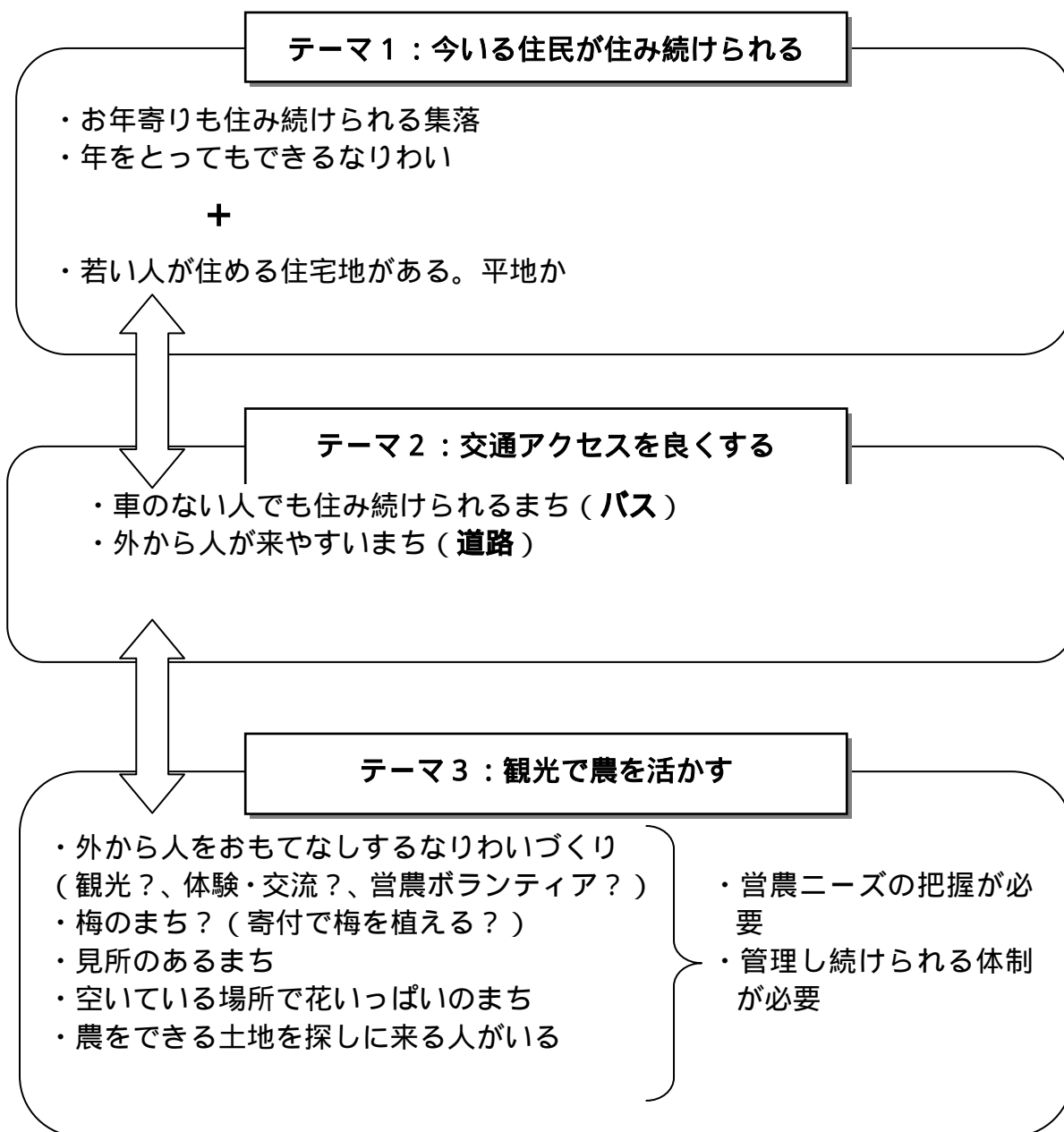
地域を活性化していくためには地域の資源を活用していくことであると考えました。特に、「山と山里」をどう活用するか、「土地(農地)」をどう活用するかが2つの大きな課題であり、その問題点や活用のアイデアについて話し合いました。

表 重点課題

山・山里をどう活かしていくか？	土地（農地）をどう使うか？
<p><資源名></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鷹取山 ・ 鳥 ・ カブトムシ ・ シカ・タヌキ・サル・ウサギ ・ きのこと・山芋 ・ 生沢東の池の蓮 ・ 寺坂の迎接院 ・ おおいそ学園入口の榎(昔、茶屋があった) ・ 三之宮道 <p><問題点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 狩猟や採取に来る人で危険、荒らされる ・ 外から人が来ても交流しないと荒れるだけ ・ 目が届かない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自給自足か？ 住宅を増やすか？ ・ みかん畑売れない。どうする？ ・ 10年先を見据えた農業が必要 ・ 他の作物に変えるか？ ・ みかんのオーナー園は15年続いている <p><活用アイデア></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 借り上げ町営農園 ・ お年寄りにインストラクターになってもらって交流を ・ クラブハウスを交流拠点に

3. まちづくりのテーマ

地域のまちづくりのテーマについて話し合いました。そして、「今いる住民が住み続けられる」こと、「交通アクセスを良くする」こと、「観光で農を活かす」こと、の3つが大事なテーマであるということになりました。



4 . まちづくりの取組

まちづくりのテーマにそって重点的に行うべき事業・活動・計画など取組について話し合いました。地域ごとの特色を活かす、あまっている土地の活用が必要であるということになり、地域ごとの特色と自然・農地について何を・どこで、誰が行うのかを考えました。

4・1 計画の理念

「豊かな自然の中で生活文化を伝承し、農と緑を交流で生かすまち」

国府北地域は、県道沿いの生沢、寺坂地区と丘陵部の虫窪、黒岩、西久保地区からなっています。みかんや柿などの果物の種類が多く、酪農も盛んで様々な農業が営まれている地域です。

また、大磯町で一番高い鷹取山、大磯の奥入瀬である谷戸川など豊かな自然を有している地域でもあります。

西久保のバス停から見渡せる丹沢山系・箱根山・富士山の眺望景観はすばらしく、豊かな自然とすばらしい風景を気に入って、若い人も住みに来ています。このため、地域の生活文化を継承していくための定住促進と地域の資源である農業と自然を生かした交流が必要であると考え、「豊かな自然の中で生活文化を伝承し、農と緑を交流で生かすまち」を計画の理念とします。

4・2 重点的な取組

1) 地区毎の特性

国府北地域は、地区毎に特徴の異なる地域であるので、今後の取組を考えるにあたり、地区の特色や資源を整理しました。

寺坂・生沢は、比較的平坦地であり、中央に大磯と平塚を結ぶ県道があることから交通量の多い地域です。沿道には既に直売所がいくつかあるなど、交流の拠点となる場所があります。また、鷹取山へはバードウォッチングの人が多く訪れます。

虫窪、黒岩、西久保は通称山3地区と呼ばれますが、丘陵の上にあって丹沢、箱根を見渡せる見晴らしのいい場所です。穏やかな気候の中でのんびりと農家を営む人が多い一方、年々耕作放棄地も増え、人口も減少し、このような環境を活かした取組も必要となっています。

全体に共通して、若者が流出しないよう新しい住宅を確保すること、農業・農家を活かした観光交流の取組などにより、地域の活力を維持していくことが必要です。

表 地区の特色

地域名		特色や資源	
『柿の里』 寺坂（120戸）		<ul style="list-style-type: none"> ・交通量が多い ・柿の木のあるまちなみ（各戸に1本はある） ・果物の種類が多い ・産物を守る拠点（直売所）が複数ある 	
『緑と川の里』生沢 （500戸）		<ul style="list-style-type: none"> ・平坦地で田が多い ・夏にはプールに来る人が多い ・鷹取山へバードウォッチングの人が多く来る ・ハイキング一日コース（神揃山からのコースと一緒に、トイレが必要） 	
山3地区	『みかんの里』 虫窪（100戸）	<ul style="list-style-type: none"> ・みかんで秋来る人が多い ・谷戸にいい水がある（セリ、ホタル） ・大磯が見渡せるパノラマの見晴らし ・放棄地が多い 	丹沢山系・箱根山が見わたせる眺望 観光交流農業 新しい住宅が必要
	『のどかな里』 黒岩（45戸）	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく、のんびり農業をしている ・丘の上でひらけている ・別荘地？ 	
	『見晴らしの里』西久保 （50戸）	<ul style="list-style-type: none"> ・まちから入ってきた人も多い ・農地を持っていない人が半分 ・市民農園は喜ばれるだろう ・元ゲートボール場が空いている 	

2) 重点的な取組

計画のテーマの達成のための重点的な取組は、次のとおりです。

テーマごとの取組としては、まず、住み続けられるまちにするために、各地区で計画的に住宅地とする場所を確保する必要があります。また、交通アクセスは居住者のみでなく来訪者にとっても重要ですが、少なくとも既存のバスを維持することが必要です。さらに、観光で農を活かすために、観光モデルルートの整備が必要ですが、それとあわせて、観光マップづくり、案内標識の整備や農地の活用方策や援農などの取組も必要です。

地区別には、住民1人1人ができることから始めることが必要ですが、例えば寺坂では県道沿道を花で演出することや、山3地区では耕作放棄地を貸し農園として活用することなどが必要です。

表 重点的な取組

区分		重点的な取組内容
テーマごとの取組	住み続けられるまち	若者の定住を促進するための住宅地化の検討
	交通アクセスの良いまち	既存のバスの維持
	観光で農を活かすまち	観光モデルルートの整備（プール～酪農～眺望） ・環境・観光マップづくり（HP等でも公開・PR活用） ・案内標識、駐車場の整備 ・鷹取山の散策路の整備 ・援農ボランティア・案内ボランティアの活用 ・インストラクターの任命 山林の保全 谷戸川の自然河岸の保全（黒岩～生沢） 農地の活用や貸し借りのための相談の場づくり
	その他	行政は提案に対する回答を 実行計画と評価を
地区別の取組	寺坂	道路沿いの空いてる土地に花を植える 埋もれた文化財の発掘と活用
	生沢	ハイキング自然体験 生沢プールを観光ルートのスタート地として整備
	虫窪 黒岩	貸農園の整備 ・小口～大口(1～3反)まで ・援農ボランティアの活用
	西久保	

